

説明文の 要旨をえらぼう

小4／文章を読んで、筆者がいちばん言いたいこと（要旨）を1つえらびましょう

なまえ

ひづけ

1 ごみを減らすを よんで、この文章の要旨として、もっとも正しいものを1つえらびましょう。

使えるものを大切に使い、いらなくなっても分けて出せば、多くのごみは資源として生まれ変わる。ごみを減らす工夫は、一人ひとりの小さな心がけから始まる。

- 1 ごみはどれだけ出しても問題ない。
- 2 ごみを減らす工夫は一人ひとりの心がけから始まる。
- 3 資源になるごみは一つもない。
- 4 ごみを分けても生まれ変わらない。

2 昔と今の道具を よんで、この文章の要旨として、もっとも正しいものを1つえらびましょう。

昔の人は、火をおこすのにも水をくむのにも多くの時間と力をかけていた。今は道具や機械が進歩し、同じ仕事が短い時間でできるようになった。道具の進歩は、人々のくらしを大きく変えてきたのである。

- 1 昔の道具は今の道具より便利だった。
- 2 道具はいつの時代も変わっていない。
- 3 道具の進歩がくらしを大きく変えてきた。
- 4 今のくらしは昔より不便になった。

3 地図の記号を よんで、この文章の要旨として、もっとも正しいものを1つえらびましょう。

地図には、田や畑、学校や病院などを表す記号が使われている。文字で一つ一つ書くよりも、記号を使うほうが、多くの情報をせまい紙面にわかりやすく表すことができる。

- 1 記号を使うと情報をわかりやすく表せる。
- 2 地図には文字だけを書くのがよい。
- 3 記号は地図をわかりにくくする。
- 4 地図に情報を入れることはできない。

4 天気とくらしを よんで、この文章の要旨として、もっとも正しいものを1つえらびましょう。

人々は昔から、雲の動きや風のようにすを見て天気を予想し、農作業や漁の計画を立ててきた。天気の変化を読み取る力は、くらしを支える大切な知恵だったのである。

- 1 天気を読み取る力はくらしを支える知恵だった。
- 2 昔の人は天気を気にしなかった。
- 3 天気は農作業と関係がない。
- 4 雲や風から天気を知ることはできない。